

# ビクトーザ<sup>®</sup>皮下注18mgを使用される方へ

ビクトーザ<sup>®</sup>は、2型糖尿病治療\*のためのお薬です。以下の点に注意の上、ご使用ください。  
この注意は必ず家族やまわりの方にもお知らせください。

\*次のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合

①食事療法、運動療法のみ ②食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤を使用

## 1. ビクトーザ<sup>®</sup>の作用と効果

小腸から出る消化管ホルモンの1つであるGLP-1(ジーエルピーワン)の構造を少し変え、1日1回投与のお薬にしたものです。すい臓のβ(ベータ)細胞に働きかけてインスリンを出させ、食事によって高くなる血糖値をコントロールする役割を持っています。



次のような方は使う前に必ず主治医と薬剤師に伝えてください。

- 過去にビクトーザ<sup>®</sup>皮下注18mgに含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある
- 妊娠中、または妊娠している可能性がある
- ほかに薬を使っている(お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、薬局等で購入された薬も含めて伝えてください)

## 2. このお薬の使い方

### ビクトーザ<sup>®</sup>使用開始時の投与量について

1日1回、0.9mgを朝または夕方に注射します。

ただし使いはじめるときは、主治医の指示に従って、下記のように段階的に投与量を増やしてください。

**STEP 1** 1日1回0.3mgの投与を1週間以上続けてください。

月 日( ) ~ 月 日( )

**STEP 2** 1日1回0.6mgの投与を1週間以上続けてください。

月 日( ) ~ 月 日( )

**STEP 3** 1日1回0.9mgの投与をずっと続けます\*。

月 日( ) ~

\*治療の継続に関しては、主治医の指示に従ってください。

- 朝または夕方に1日1回、できるだけ毎日同じ時刻に注射してください。
- 誤って量を多く注射したり2回注射した場合は、すぐに主治医または薬剤師に相談してください。便秘・下痢・胃の不快感などの強い消化器症状が起きることがあります。
- 注射し忘れた場合は、通常注射している時間から数時間以内であれば、注射してください。それ以上時間が経っていた場合は注射せず、次の日に1日分を注射してください。絶対に2日分を一度に注射してはいけません。数日注射し忘れた場合は、主治医に相談してください。
- 主治医の指示なしに、自分の判断で薬の量を変えたり、使うのをやめたりしないでください。

※裏面もご覧ください。

### 3. 注射の仕方

- 毎回注射する直前に、新しい専用の注射針を取りつけて使用します。使用にあたっては、製品に添付されている使用説明書をお読みください。
- おなか(腹壁)、二の腕(上腕部)、太もも(大腿部)のうち1箇所を決め、毎回2～3cmずつ(指2本以上)ずらして注射してください。



- 注射後は必ず注射針をはずし、一度使った注射針を繰り返し使わないでください。
- カートリッジに薬液を補充しないでください。
- カートリッジにひびが入っていたり、液が変色している場合は使用しないでください。
- 1本のビクトーザ®をほかの人と一緒に使わないでください。

### 4. ビクトーザ®による治療中の注意点

- 最もよくみられる副作用は、便秘、下痢、胃の不快感などの消化器症状です。通常はビクトーザ®を使いはじめた頃にあらわれ、数日から数週間で自然となくなります。嘔吐・悪心・下痢・食欲不振等がみられた場合は、水分を十分補給し、脱水状態に致らないよう注意してください。

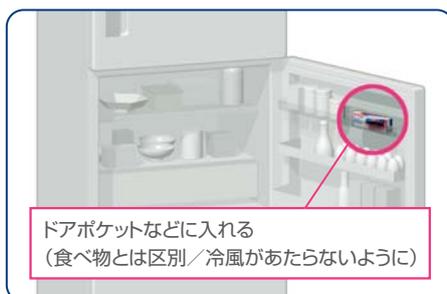
症状が長く続く場合には主治医に相談してください。

- **ほかの糖尿病薬(SU薬など)と併用した場合に低血糖症状(脱力感、倦怠感、強い空腹感、冷や汗、手足のふるえ、意識がうすれる、どうきなど)があらわれることがあります。症状を感じたら、すぐに主治医に相談してください。また、定期的に通院し、血糖値を確認してもらいましょう。**
- **嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛(急性膵炎の初期症状)など異常が認められた場合には、直ちに使用をやめて、速やかに医師の診断を受けてください。**

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、主治医または薬剤師に相談してください。

### 5. 保管方法

- お子様などの手の届かないところで、直射日光を避けて保存してください。
- 未使用の場合は、冷蔵庫内に、食べ物などとは区別して清潔に保存してください。しかし凍らせてはいけません。凍ってしまった場合は使用しないでください。



- 使用中は冷蔵庫に入れないで、注射針をはずして室温で保管し、30日以内に使用してください。
- 薬が残った場合、保存しないで廃棄してください。廃棄については医療従事者に相談してください。